

産官学連携の事例紹介

50人が地域課題考える

高経大で「知の拠点共創フォーラム」



地域課題の解決などに向けて意見を交わすパネリストら

高崎経済大が産官学連携の取り組みを紹介する「知の拠点共創フォーラム」が、高崎市の同大で開かれた。企業や行政機関と連携した研究の事例報告会と、市内の企業経営者らによるパネルディスカッションを通じ、聴講者約50人が地域の未来を考えた。

パネルディスカッション 室長がコーディネーター
 ヨンは同大「知の拠点」を務め、キンセイ産業の金子正元社長、ア

サレ商会の広瀬一成社長、県産業経済部産業政策課の児島清浩課長が登壇。

大学との連携や地域課題の解決に向けて、児島課長は「大学が有

する高度な知見や人材、専門性は、地域が持続的に発展するため「重要」と指摘。広瀬社長は、平凡で特徴が少ない地域の研究事例が少ないとし「リアルに地域に役立つテーマを見つけ、取り組んでもらいたい」と期待し、金子社長は「社会に出るからの勉強が本当の勉強。そのためには、

志と目標を持つことが絶対条件。大学の教育で志や目標の種を植えてください」と述べた。地方空港を拠点とした観光振興や高崎だるまの近現代などの研究成果の報告や、同大のプログラム「特別講義マスタークラス」の受講生によるAI活用に関する発表もあった。

(丸山朱理)